事業推進の心　仮設労働安全新生プラン

ACCESS 陽のあたる安全文化の創造

もうよそう　ヒューマンエラーの他人事
結こう　挙全足場で身近なしあわせ
めざそう　挙心して働らせる 心豊かな国創り

ACCESS新聞
Alliance Cooperation of Construction Equipment & Scaffolding for Safety

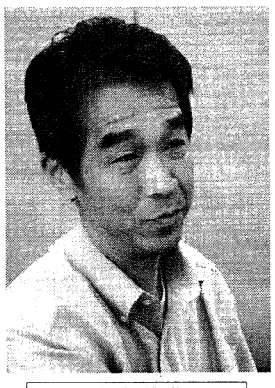
Vol.71
編集・発行人　照井利明
発行所
全国仮設安全事業協同組合本部
〒103－0001
東京都中央区日本橋小伝馬町15－18　日本橋ＳＫビル
ＴＥＬ03－3639－0641
ＦＡＸ03－3639－0640

北海道支部　〒004－0015　札幌市厚別区下野幌テクノパーク２－１－14　電話(011)899-3276　ＦＡＸ(011)899-3276
東北支部　〒981－0904　仙台市青葉区旭ヶ丘１-43-16（えんどう豆Ａ館103号）　電話(022)301-5280　ＦＡＸ(022)301-5285
関東支部　〒103－0001　東京都中央区日本橋小伝馬町15－18(日本橋ＳＫビル５Ｆ)　電話(03)3639-1571　ＦＡＸ(03)3639-9980
北信越支部　〒950－0923　新潟市姥ヶ山6-5-26（白木ビル2-B）　電話(025)257-0066　ＦＡＸ(025)257-0067
中部支部　〒457－8535　名古屋市南区浜田町1-10　２Ｆ　電話(052)614-0701　ＦＡＸ(052)614-0705
近畿支部　〒550－0006　大阪市西区江之子島１－６－８(シャンピア阿波座1003号)　電話(06)6443-5213　ＦＡＸ(06)6443-5214
中国支部　〒730－0016　広島市中区幟町3－55(幟町ゼネラルビル6Ｆ)　電話(082)511-2051　ＦＡＸ(082)227-2720
四国支部　〒769－2101　香川県さぬき市志度1883-１（大河原ビル202）　電話(087)814-2245　ＦＡＸ(087)814-2246
九州支部　〒811－2101　福岡県糟屋郡宇美町大字宇美字古野ノ口3426-9　電話(092)957-0032　ＦＡＸ(092)957-0033
ホームページhttp://www.kasetsuanzen.or.jp/ Eメールinfo@kasetsuanzen.or.jp　各都道府県の支所へのお問い合わせは、各ブロックの支部まで連絡ください。

建設現場を「駆け込み寺」に
－子ども110番の工事現場－
地域住民の非常時の防犯に活用

仮設安全監理者センターのネットワーク活動に期待

台風などの大きな災害が頻発して起こっているなか、国土交通省中国地方整備局は、堤防やダムなどの整備事業を推進し、昨秋は中国地方に台風14号が来襲したにもかかわらず、1972年の豪雨と比較して約25%の被害に抑えることができました。今後ともさらなる自然災害抑制に努める方針です。また、同局直轄の工事事故発生状況をみると、件数は年々減少傾向にあり、死亡事故は2003年度から3年連続でゼロを継続しています。たゆまぬ国土整備事業が国民の生活を支えるという甲村謙友中国地方整備局長を、全国仮設安全事業協同組合の小野辰雄理事長と三宅弘子中国支部長が訪ね、中国地方の現状、今後の在り方などについてい談しました。


中国地方整備局長
甲村　謙友氏

小野　中国地方整備局における国土整備事業について、まずお聞きしたいと思います。

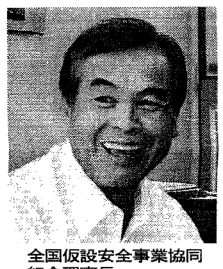
甲村　われわれがめざす安全・安心は、防災・保安機能向上のため、ハードとソフトとネットワークでの危機管理体制を確立しています。台風などによる大きな災害が頻発しているなか、昨秋の台風14号による被害を最小限に抑えることができました。中国地方整備局では、これまでの台風被害を教訓に堤防・ダムの建設による減災対策で被害を抑制しており、浸水被害は低減しました。河川改修が行われず同規模の災害を迎えた場合には、広島市街地では約4万3000戸が浸水しただろうと推計されています。実際、1972年の豪雨と比較すると、浸水面積は、200ヘクタールから50ヘクタールと約25%に低減した形です。

米国ニューオーリンズのカトリーナの被害は、市の陸域の80%、約16万戸が浸水し、被害総額は、約15兆円ですが、事前整備事業に必要な費用は、約2200億円で済むという評価がなされています。約60分の1の投資で自然災害が防げるのです。われわれはこうした教訓をもとに、災害に強い地域・都市づくりにまい進しております。「陸軍工兵隊機関誌"River Side" September～October 2004.2」（出典：1）、「陸軍工兵隊ニューオリンズ事務所ホームページ」（出典：2）

三宅　何事にもたゆまぬ国土整備事業が国民の生活を支えているのですね。

小野　今、お話を聞いたように、国土整備のために、さまざまな工夫がされているということをもっと国民は理解して欲しいです。どころで地元と密着した新しい工夫もなされているようですね。

甲村　はい、その通りです。各事務所ではアイデアがたくさん生まれています。たとえば、公共工事の現場でのイメージアップに関して及ばずながら力を注いでいます。われわれが抱える現場では、路上や子どもの通学路などさまざまな場所で工事をしています。そこで、単に工事をするというのではなく、この場所に現場があることが地域のためになるという観点で犯罪から子どもを守る「子ども110番の工事現場」を実践しています。現場は、常にいろんな人が出入りしています。夜間工事を行う場合もあります。第三者の目が常にあるということが、犯罪の抑止力になり、犯罪を犯しにくい。万が一、被害があった場合、いつでもSOSを求めてこられる環境をつくるため、「子ども110番の工事現場」をつくりました。


全国仮設安全事業協同組合理事長
小野　辰雄

「非常時における駆け込み寺」というべきもので、これまでの騒音や振動などに対する理解と協力を求める工事から、地域住民の人々が参加してもらえる工事現場へと変わっていきます。地域・学校・警察との連携と現場の意識向上によって地域の防犯活動に貢献していきます。

当初は管内の広島国道事務所でスタートした試みですが、評判もよく今年度から全事務所に展開します。われわれが進めてきた取り組みの多くは自然災害に対する安全・安心ですが、このように事件を未然に防ぐお手伝いをすることも安全・安心という観点からも、これからは大切なのではないでしょうか。地域にとってもいいことだし、建設業のイメージアップにもつながる試みだと思います。今までは社会から工事現場を悪いイメージで捉えられていたものを逆に安全・安心の場所に転換するというものです。

さらに、誰もが安心して暮らせる地域づくりのため、整備局による除雪機械の貸し出し支援や建設業者によるボランティア活動を支援しています。大雪が降った際、事務所の安全協議会のメンバーを中心に、除雪作業などを行ってもらいます。もちろんこうしたボランティア活動を実施した安全協議会のメンバーには、地元から感謝状が贈られています。さらに、災害情報の共有化や幹線道路のネットワーク化によって、仮に事故がおきても、その後の交通をスムーズに致します。

三宅　建設現場というと汚いから近寄らないようにしようとかそういうイメージが強いのですが、悪いイメージは払拭していかなくてはなりません。今、悲しいことに子供を狙った事件が全国で多発しておりますが、中国地方整備局がこういう取り組みをされていれば、安全で安心してお子さんも通学でき、現場も良いイメージに転換することになりますね。

小野　私は常々、国交省がやっている国づくりがいかに役立っているかということを、どうすれば国民に理解してもらえるのか悩ましく思っていました。このようなアイデアは、国民に建設業をより理解し、親しみをもってもらうのに、大変役に立つと思います。

三宅　中国地方整備局ではここ3年間、建設工事死亡事故ゼロという素晴らしい成果をあげておられます。局長は就任会見当初から、国民の安全・安心を第一とし、事故防止について並々ならぬ決意で臨まれておりますね。

甲村　当局管内ではおかげさまで年々事故が減少しております。当局では100%、「手すり先行工法　働きやすい安心感のある足場」を採用しており、05年度の対象現場158件では、足場に起因する墜落事故もゼロです。さらに大部分は、「チェックリストによる足場の安全点検」も行っているため、ハードとソフトの両面の対策で事故を防止しています。ところで、新聞の記事で読みましたが、「仮設安全監理者センター」を設立されたそうですね。

小野　これまでは組合員だけに資格を付与していました。安全点検を行う仮設安全監理者については、一昨年度より資格をオープン化しました。昨年度も今年度も多くの建設業者の方々が当該資格を取得し、全国で安全点検を行っております。組合員だけではすべての現場をカバーすることはできませんので、ゼネコンなど建設業者の方々にも資格取得をオープン化したのがその理由で、多くの人に安全点検をしてもらおうというものです。組合では約1500人しかいませんが、今後5000人、1万人と伸ばしていきたいと考えています。そうすれば事故防止に絶大な効果が表れるものと確信しております。

さらに今回、オープン化して資格を取得していただいた方々とのネットワークを構築するために、「仮設安全監理者センター」を活動させていただいております。このセンターの活動についてもぜひ、中国地方整備局からもご支援願えればと思っております。

甲村　建設工事での事故防止で大事なのは、それを正しくやっているかを第三者の目で厳格にチェックすることがポイントです。組合が実施されている足場の安全点検は、仮設のプロの目でチェックされているので効果が大きいですね。正しくやっているかをプロの目で見てもらうということは大切でしょう。こういう資格を外部にオープン化され、さらに資格を取得された方々のネットワークづくりをきれていることは安全について良い取り組みだと思います。

組合のみなさんが携わっている仕事も「手すり先行工法　働きやすい安心感のある足場」というハードと「チェックリストによる足場の安全点検」というソフト、そしてネットワークである「仮設安全監理者センター」が相まってはじめて、安全・安心が確保されるという点においては国土交通省と組合の活動は、同じだと思います。

われわれは一つの分野として国民の安全・安心のためにものをつくり、完成させるということがありますが、それをつくる人、管理する人の安全・安心をなおざりにして国民の安全は確保できないと思います。当局管内では、死亡事故ゼロを継続中で事故も減っていますが、本来は死亡事故を含めて、労働災害自体をゼロにしていかなければならないものですから。

三宅　ありがとうございます。中国支部でもオープン化した仮設安全監理者特別教育講習会をさっそく開催し、センター活動にまい進したいと思います。

小野　私も品確法（公共工事品質確保促進法）の徹底と組合の精神や事業はまさに相通ずるものであり、切り離せるものではないと考えていますので、各発注機関の情報を共有しシステム化していくという取り組みは災害を撲滅するという観点からも重要だと思います。

甲村　さらに、国土交通省では、工事成績評定時に安全対策に関するチェック項目を設け、厳しくやっています。最近では工事成績が悪いと次の年の入札参加資格が厳しくなりますからね。われわれと組合の活動が車の両輪で展開できれば事故も減っていくでしょう。

小野・三宅　中国地整管内では死亡事故ゼロを継続されているというお話をお聞きし、われわれも身の引き締まる思いです。本日はありがとうございました。

チェックリストによる足場の安全点検

全国仮設安全事業協同組合中国支部長
三宅　弘子

国交省地方整備局長てい談シリーズ

たゆまぬ国土整備事業が国民の生活を支える

「子ども110番の現場」実施状況

看板の設置作業

全国に広めたい「子ども110番の工事現場」

一般市民はできた構造物に「場」の発想は、まさに画期的ついては、みなウエルカム（歓迎）であり、その構造物なことです。

その意味で、国土交通省中については恩恵を享受していに端を発し、中国地方整備局ますが、とかく建設現場というのは3Kといわれるように全域を対象として実施されているイメージとしては決してよいとはいえません。

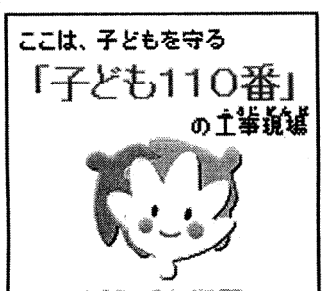
現場が地域住民と密着する「場」は、まさに市民に開かれた現場ということで歓迎すべき方法は、さまざまありますが、きものです。

「子ども110番の工事現場」は、近年、とくに治安の良い日本というイメージが、くつがえされる事件が全国で多発しています。とくに幼い子供たちが命を狙われる事件が後を絶ちません。

工事現場では多くの人が働くために、出入りしています。子供だけではなく、大人も狙われたりすれば、現場にSOSを求めることが可能であり、また犯罪者も他人の目があれば、犯罪を思いとどまる可能性があります。

現場が「非常時の駆け込み寺」になることは、地域の犯罪防止の一助となり、現場のイメージアップにつながります。

こうした「子供110番の工事現場」の取り組みを全国に広めることができれば、治安向上と建設業のイメージアップにつながります。



建設業のイメージアップにつなげる

関東支部

国交省職員含め40人が受講
仮設安全監理者特別教育講習会

当組合関東支部は6月15日、神奈川県厚木市の厚木市文化会館で、仮設安全監理者特別教育講習会（足場編）を開催しました。

今回は、国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所厚木出張所のスタッフ7人が参加し、仮設安全監理者の資格を取得しました。国交省の職員が当該資格を取得したのは、今回が初めてのことです。ゼネコンからの受講者と合わせると40人が資格を取得しました。

当組合は、2004年度から組合員に限っていた仮設安全監理者の資格取得を建設業者にもオープン化し、05年度には158人の建設業者が同資格を取得しました。今年度は建設業者を対象に約1,000人の資格取得者を目標にしています。

同出張所管内では、安全対策の向上をさらに継続させるため、9月5日に開催される仮設支保工編の講習会も受講する予定です。

澤健男同出張所長は、「安全対策は下請けに任せてはだめだ。元請けに指示するだけではなく、発注者として積極的に知識を習得し、仮設工の安全性の判断ができるようにしなくてはならない。その意味で、今回の講習会は大変意義深い。私も受講して大変に参考になった。また、仮設安全監理者の資格取得は、当出張所が安全衛生活動として推進しているリスクマネジメントに役立ち、資格保有者が現場で点検をすれば安全に対するリスク対策が向上する。現場での事故を防止するためには、仮設安全監理者による定期的な現場の安全点検の実施が重要である」と語りました。

仮設安全監理者による安全点検実施が重要

「働きやすい安心感のある足場」学ぶ
延岡労基署　発注機関と連絡協議会開催

延岡労働基準監督署（長友修署長）は6月27日、当組合の協力のもと、「平成18年度建設工事発注機関との連絡協議会」を開きました。冒頭、長友署長が、「みなさまの日ごろの安全管理のおかげで、労働災害は減少傾向にあります。全国の死亡労働災害が過去最小となった昨年は、宮崎県においても災害件数は減少しており、建設業は前年に比べ大幅に減りました。その中でも延岡管内では建設業の死亡労働災害は一件も発生しておらず大変喜ばしい成果であると思います。これからも無事故・無災害に向けまい進いたしましょう」とあいさつしました。

続いて、木村監督官から「建設業の災害発生状況」の報告後、手嶋秀司当組合九州支部事務局長から「手すり先行工法　働きやすい安心感のある足場」の仮設機材についてビデオやテキストを使っての解説がありました。

会場を移動して、手すり先行工法（手すり先送り方式、手すり据置方式、先行専用足場方式）の3機種の機材の組み立て・解体の実演が行われ、手嶋事務局長が説明しました。参加者は熱心に耳を傾けて、実際に組み立てられた足場を歩き、同工法の安全性を確認しました。

読者の声

予想はしていたが、これほど儀式化しているとは思いません。全国安全週間で恒例になっている社長パトロールのことです。自社の工事現場を、社長自らが安全面を確かめるという行事です。

あるゼネコンがマンション工事現場で、社長パトロールをしたときのことです。所長から工事の特徴などの説明を受けたあと、内装工事に移っているマンションの内部を視察しました。

まさに、駆け足でただ見て回っただけという程度のものです。これで本当に安全面をチェックできるのだろうか実効性に疑問を持ちました。

さらに、本社の役員など10人くらいが同行していることにも違和感を覚えました。

社長だけならまだしも、ほかにするべき仕事を抱えている役員たちも付き合いで時間をロスするとは、なんてむだなことをしているのだろうと思いました。とにかく、効果のない儀式はやめるべきです。（匿名）

「正常化の偏見」という心理学用語があります。事故と宝くじに当たる確立が同じでも、事故には遭わないが、宝くじには当たるかも知れないと考える人間の心理状態を指します。つまり、自分には悪いことが起きないと、都合よく判断してしまう心のメカニズムです。これがどのような事態を引き起こすのか。

例えば、土砂災害が起きやすい地区に住んでいるにもかかわらず、大雨が降っているのになかなか避難しないケースがあります。

また、津波の恐れがある沿岸部の住民が、地震が起きても逃げないことも知られています。

労働災害の原因の一つに、気の緩みがあります。人間は毎日、緊張の連続では身が持ちません。だから万が一、気が緩んでも事故を防止できるようにハード、ソフトを整えることが必要です。（匿名）